

豪雨災害の抜本対策で安心・安全な三錦学区を

左京区日本共産党
後援会ニュース（三錦版）

2015年4月

左京区日本共産党後援会
京都市左京区田中飛鳥井町6
(☎七二二―二〇〇六)

《部内資料》

三錦地域では、一昨年の台風一八号をはじめ、大雨による被害が相次いでいます。日本共産党は、みつなが敦彦府会議員、とがし豊市会議員を先頭に、いち早く被災者の救援、被害の復旧に取り組むとともに、現地調査を行い、京都市・市にたいして抜本的な対策を要望してきました。日本共産党は、引き続き住民の安心・安全のためにがんばります。

緊急対応とあわせて、抜本的な対策を要望

一昨年の水害は、例年にない豪雨だったことに加え、河川改修費が大幅に削減されてきた（京都市）ことや、山の手入れが行き届かず山林が

荒廃したことも原因の一つとされています。

再発防止のため、日本共産党は、大規模な山腹崩壊が起きている実

学生ボランティアと一緒に、被害を受けた町内の復旧作業



行政を動かし、山林整備へ重要な一歩

態を突きつけ、府市合同調査を実現しました。さらに抜本的な対策として、▽所有の区分に関係なく、左京区の森林の管理状況についての実態調査を行うこと▽桜谷川に関して

は、砂防堰堤が最も効果的な力を発揮するよう適正な管理を行うとともに、流木対策に府市連携して取り組むこと―などを要望してきました。

自主防災会や町内会など地域のみなさんの切実な声と、日本共産党の議会での指摘を受けて、京都市は「京の森再生事業」を今年度から実施することになりました。

「手入れが行き届かず荒廃した森林を健全に育成するため、モデル地区を選定し、現況調査や目指すべき森林像の検討を行い、森林再生に取り組み」事業です。

二〇一五年度には、放置荒廃林

の現況調査と所有者意向等の調査を行い、調査結果をもとに目指すべき森林像を検討。来年度以降、各地区の状況に応じた対策が実施される予定です。

さらに、大文字山の山腹崩壊問題については、ナラ枯れ跡地対策として実施されている「四季の彩の森復活プロジェクト」の対象に位置付けられることになりました。

（裏面へ）



桜谷川に大量の土砂が流れる原因となった山腹崩壊の現場。地元の皆さんといっしょに現地調査をしました。

今年2月、京都府は指定前の土砂災害警戒区域を公表しましたが、三錦学区には40ヶ所の危険箇所があることが明らかになっています。より一層の取り組みの強化が必要です。



京都は、三方を山に囲まれ、身近に自然に接することができ
るまちです。大文字山の麓に位
置する三錦地域も、銀閣寺をは
じめとする豊かな歴史遺産に恵
まれ、多くの学者や文化人が居
を構えてきました。日本共産党



府会議員
みつなが敦彦



市会議員
とがし 豊

も住民の皆さんといっしょに
「哲学の道」の整備・保全にと
りくむなど、良好な住環境を守
るために力を尽くしてきまし
た。

安心して住みつづけるため
も、災害の不安をなくすことが
求められます。京都市の新しい
施策が住民の願いに沿うもの
なるよう、日本共産党も引き続
き奮闘します。また、流木捕捉
型の堰堤の設置など、いっそう
の安心・安全のための施策を求
めていきます。

東山を自然公園に

～地域にお住まいの庭師・村田龍平さんのお話～

山は、本来、四季折々の色を持っています。一年中緑の
山では、山はどんどん痩せていきます。落葉広葉樹の森
は、保水力があり、崩れにくくなります。コンクリートや
鉄でなく、昔からの知恵をうまく使うことです。豊かな土
をつくるほど山は崩れなくなるのです。

京都は歴史の宝庫です。東山には室町時代の城跡や古戦
場があります。それを活かした自然公園を整備し、京都に
来る修学旅行の子どもたちが歩いて回ることができるよう
にすれば、またとない生きた勉強の場にもなるでしょう。

昨年夏の豪雨災害の際も、要望を
まとめて左京区役所に申し入れ



被災者の生活・営業再建へ支援制度充実

日本共産党は、自然災害が発生するた
びに、現地調査に入り、被災者のみなさんの
切実な声を行政に届ける努力を重ねてきま
した。そうした努力が実った成果のいくつ
かを紹介します。

■住宅再建支援に、国の制度に上乗せす
る府独自の補助制度を創設。国の制度
が適用されない地域でも最高300万
円の支援。

■中小企業の設定や機器、農機具などの
被害にたいする補助制度を実現。

府政報告 平成26年8月豪雨

日本共産党

こんな制度が活用できます

市町村独自の制度があります
ご相談はお住まいの市町村役場へ

相談は日本共産党・議員にお気軽にどうぞ

市議会議員	市議会議員	市議会議員	市議会議員	市議会議員
市議会議員	市議会議員	市議会議員	市議会議員	市議会議員

日本共産党京都府会議員団 075-414-5566
ファクス 075-491-2916 E-Mail jp_kyoto@jcpkyotulife.jp

防災・河川改修予算の抜本的な拡充が必要

京都府では、河川整備費が平成一〇年度
の約二三三億円から、二三年度の約八一億
円へと大きく減少。河川整備率は、全国で
四二位にとどまっています。日本共産党の
追及たいして、知事も「確かに減ってい
る」と認め、制度の恒久化を検討すること
を表明しました。